広島県看護協会三原・尾道支部 会報誌

美三（びさん）

vol.38
2026.10

広島県看護協会三原・尾道支部会員数

保 健 師	19人（入会率12%）
助 産 師	36人（入会率64%）
看 護 師	1,595人（入会率50%）
准看護師	78人（入会率 7%）
合　　計	1,728人（入会率39%）

支部事務所移転のご報告

このたび、長く親しんでまいりました港湾ビルが三原市の方針により建て替えられることとなり、支部事務所を移転いたしました。これまで多くの会員の皆さまにお立ち寄りいただいた場所を離れるのは少し寂しい気持ちもありますが、新しい事務所でまた皆さまをお迎えできることを楽しみにしております。

新事務所は、これまでの事務所では見えなかった海が、ふっと視界に広がるようになりました。明るい日差しがやわらかく差し込み、ちょっと嬉しくなる景色が味わえます。会議のスペースも整え、以前よりもゆったりと過ごしていただけるようになりました。海のきらめきとともに、ほっと一息ついていただけると思います。

これからも、会員の皆さまに寄り添いながら、地域に根ざした活動を続けてまいります。新しい場所でも、変わらぬ温かいご支援をいただけましたら幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新事務所からの眺め



新支部事務所



かつて支部事務所があった港湾ビル



移転後初施設代表者連絡会議



三原・尾道支部 活動報告

社会経済福祉研修会 医療安全研修を受講しての学び

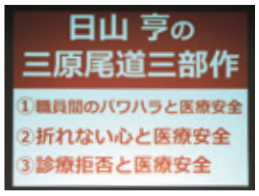
瀬戸田診療所 セーフティマネジメント部会
山本・越智

令和7年8月9日に開催された医療安全に関する研修に参加しました。

今回の研修では、①職員間のパワハラと医療安全②折れない心と医療安全③診療拒否と医療安全について実際の公訴事例を基に講義をしていただきました。多角的な視点で医療安全を考える機会となりました。医療安全は技術や知識だけでは守れず、私たちの心の状態にも深く関わっていることを改めて実感しました。「心が折れそうな状況では、医療安全は十分に保てない」という講師の言葉は、忙しさに追われる私たちにとって重要なメッセージだと感じました。患者さんやご家族の抱える苦しみや不安の支えとなるためには、看護師自身の心が折れないようにすることは大変重要だと考えます。

研修で学んだ「心を強くする方法」を8つ紹介します。

①厳しすぎる自分を見直そう
②「ない」ものではなく「ある」ものに目をむけよう　減点主義ではなく、加点主義に
③肯定的な言葉を使おう
④「ありがとう」と言ってもらえることをする
⑤生活を楽しもう
⑥話を共感してくれる人に聞いてもらおう　でも愚痴はほどほどに
「人生は言葉の通りになる」の法則
⑦笑顔を大切に
⑧「縁」を大切に



令和7年度からSafetyⅡの視点でも取り組みを開始しました。出来ていることに目をむける「加点主義」は、「心を強くする方法」の②と通じていると思います。当診療所では医療安全を担当している私たち委員は「すまいる」というリーフレットを発行して院内の医療安全の啓発に努めています。さっそく今回の研修内容について共有しました。まず、心が折れやすい人の傾向を紹介したあと前述の8つの方法を掲載しました。次に自分の強みを3つを考えてみることを提案しました。自分のすばらしさに目を向け、究極自分のことが大好きになって自分の心も大切にしながら「安全安心な医療を提供できる」チームを目指したいです。

今後もスタッフ一人ひとりが心身ともに健やかに働ける環境づくりに努めていきたいと思います。





救急蘇生研修に参加して

公立世羅中央病院 3階病棟
栗原 恵梨香

三原・尾道支部救急蘇生研修をみつぎ総合病院で受講しました。研修では急変の発見から応援要請、心肺蘇生、気管挿管をグループに分かれ他の病院の新人看護師と交流しながら演習を実施しました。応援要請の場面では即時に自分の役割を把握しチームで円滑に動けるよう声掛けをすることの重要性を学びました。心肺蘇生の場面では正確な胸骨圧迫を行うことに注力しました。基本的な手技はもちろん正確に胸骨圧迫できるようここでもチームでの声掛けが大切なことを学びました。気管挿管時の介助の実習では、マネキンを使用し実際に気管挿管を行うことで、処置がスムーズに行える介助方法がわかりました。

看護学生時代にも講義を受け、入職後も新人研修を受けましたが実際の場面に遭遇したことがなく、もしそういった場面に遭遇したらと不安でしたが、救急看護認定看護師さんや指導者さん達の適切な指導のおかげで、救急蘇生時の対応について理解でき、実践にむけて楽しく実習ができました。急変時の患者の観察やアセスメントを的確に行い、周りの人と連携し正確で円滑な処置を行うことが患者の生命を守ることにつながるということを学びました。実際の場面に遭遇しても看護師として患者に不安を与えることなく看護できるようになりたいと思いました。今後、急変の場面に遭遇することはないほうがいいですが、遭遇した際は今回の研修の学びを活かしチームの一員として動いていけるようになりたいです。今研修に共に参加した研修生、指導者の方々、研修を計画、実行された方々や研修場所の提供ならびに研修に参加させていただくための時間を作っていただいた職場のみなさまに感謝します。







関連職種地域連携研修会「感染管理」に参加して

医療法人 高須会 山本病院
山崎 希水栄



令和7年10月11日に開催された関連職種地域連携研修会の感染管理「針刺し切創、粘膜曝露事故対応」「マダニ感染症について」に参加させていただきました。

研修会では、職業感染と血液媒介感染について、血液媒介病原体の感染率と伝播経路、針刺し切創事故の状況と粘膜曝露事故の状況、事故後対応と免疫獲得について学びを深めることができました。

その中でも針刺し・切創事故については、事故の発生割合が最も多いのは看護師であり、医療従事者全体の中でも半数を占めていることを知りました。これは、私たち看護師が患者に直接ケアを行う機会が多く、鋭利機材の取り扱いや血液・体液に曝露する場面が多い環境にあることを示しています。日々の忙しさの中で、「自分は大丈夫」という過信や慣れが事故につながっていると考えられます。こうした状況を踏まえ、看護師として常に危機感を持ち、自分自身や患者を守るためにも、標準予防策をはじめとした感染対策を適切に実践し、徹底していくことの重要性を改めて感じました。

また、マダニ感染症については、自分が住んでいる広島県はホットスポットと言われ、特に尾三地区ではSFTS（重症熱性血小板減少症候群）や日本紅斑熱の発症が比較的多い地域です。そのためマダニ感染症の患者に遭遇する可能性は高いと考えられます。看護師として正しい知識を得て適切に対応できるように日頃から準備しておくことの必要性を再認識できました。





組織強化研修会「仕事に役立つ体づくり」に参加して

介護医療院白龍湖
吉森 ルミ

R7年11月8日に開催された、組織強化研修会「仕事に役立つ体づくり」～フレイル予防・生活習慣予防で健康を維持しましょう～に参加し、健康について改めて考える良い機会となりました。

研修の中で印象に残ったのは、「健康とは自分の好きなように好きな所へ行き、好きなことができることである」という言葉です。病気がないことだけが健康ではなく、自分らしく生活しやりたい事をやり続けられる状態こそが健康であると学びました。日頃、利用者様の健康を支援する立場として働いていますが、自分自身の健康管理について改めて考える機会となりました。

また、ACPについての話では、講師の先生のご家族の話も交えて話されたり、自分自身や家族が将来どのような終活や最期を望むのかなど話し合い、共有しておくことの大切さをより身近なこととして考えることができました。

実技では、膝を伸ばす運動・かかと上げ・かかと落としや・スクワットなどのストレッチ体操を行い、体を動かすことの大切さや継続することの必要性を実感しました。運動は特別なことではなく、日常生活の中で無理なく続けることが健康維持につながることを学びました。

さらに、講師の先生がYouTobe三原赤十字病院を動画投稿されていることを教えていただき、研修後も実践できる環境があることは大変有意義であると感じました。

今回の研修を通して、健康を維持するためには、生活習慣の改善が欠かせないことを再認識しました。特に、歯や口腔機能を大切にすること、バランスの良い食事を心掛けること、適度な運動を継続することが重要であると感じました。また、外出する機会を増やし、人とのつながりを持つこともフレイル予防や心身の健康維持に大きく関係していることを学びました。

今後は、自分自身の生活習慣を見直し、できることから継続して取り組んでみたいと思います。

また、利用者様が健康で自分らしい生活を送れるよう、今回学んだ内容を日々の看護・介護の実践に活かしていきたいと思います。







令和8年度 事業計画

研修事業

- 支部総会後研修会／4月11日
  「音楽療法について」【講義・演奏】
- 社会経済福祉研修会／8月8日
  「医療安全について」
- 救急蘇生研修会／9月12日
- 組織強化研修会／11月14日
  「人材育成について」

研究事業

- 看護研究発表会／令和9年2月

看護広報事業

- 進路相談会／7月25日
- 支部だより発行／10月31日

関連職種地域連携事業

- 関連職種地域連携研修会／10月10日
  「摂食嚥下について」

交流事業

- クラフトバンドによる小物づくり／12月12日

地域看護事業

まちの保健室

〈イベント型〉
- 三原市民保健・福祉まつり
- おのみち市民健康まつり

〈常設型〉
- フジグラン三原
- 尾道市総合福祉センター



令和8年度 役員紹介

役員集合



役員名	氏　名	所　属
支部担当理事	柿本　文重	JA尾道総合病院
支部長	森数　充代	公立みつぎ総合病院
副支部長	坂本　富江	興生総合病院
副支部長	中川　千穂	尾道市立市民病院
幹事（総務）	長谷　茂	公立世羅中央病院
幹事（財務）	高橋　伸枝	三原城町病院
幹事（社経）	安部江美子	因島医師会病院
幹事（社経）	新谷　圭子	介護医療院白龍湖
幹事（社経）	寺尾　知子	三原市医師会病院
幹事（教育）	桑原みち子	JA尾道総合病院
幹事（教育）	森数　貴美	尾道市医師会看護専門学校

編集後記

会報誌『美三38号』の発行にあたり、日頃より温かいご支援を賜っております会員の皆さまに、心より感謝申し上げます。支部では、安心して働き続けられる環境づくりや、日々の学びにつながる研修の企画に取り組んで参りました。忙しい毎日の中でも、少し気分が和らいだり、新しい一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

今後も、皆さまのお声を大切にしながら、より親しみやすい会報誌づくりに努めて参ります。引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

安部 江美子・寺尾 知子・新谷 圭子

［発　行　日］令和8年10月29日発行

［発　行　所］公益社団法人広島県看護協会
三原・尾道支部事務所
〒723-0017 三原市港町3-8-1
プラザビル2階24号
TEL/FAX:0848-64-1616
E-mail: s-mihara@nurse-hiroshima.or.jp

［発行責任者］森数 充代